

KOZAN & momonga STYLE

森の中の 子育て。

MOMOスタBOOK Vol.3 子育て編

子どもは自然。
だから、
自然の中の子育てがいい。





イタナシツバキ



もくじ

- 3 森ちょこっひろぼの1日
- 5 森の中の子育てはこんなに広がっています
- 7 サークルの人たち、みんな集まれ
- 11 森からひろがるワッハッハ。
- 17 子育てができる環境、期待されること
現状分析結果
- 19 調査概要
- 20 コーザンの子育てを支える仕組み
- 21 進化する子育ての応援部隊
- 23 子育てサークルがいま、すごい！
進化する組織。コーザン常識へ～おそばくひろぼのケース～
- 25 ふあれずと鉱山はこんな場所 鉱山プラットフォーム
- 27 地域づくりへ。モモンガくらぶの活動の変遷
- 30 あとがき



ニヤアキツバキ(種)



ハルマシ





1 かぜのいえ



2 森のおうち



3 グラウンド



4 森トナハウス



5 センター周辺散歩路



6 まなびの森



ふおれすと登山への道 1 ふおれすと登山への道のご紹介です！今回は、最も奇祭の観覧車からスタート。

森ちょこっひろばの1日

森ちょこっひろばは、

2005年からふおれずと釜山で始まった子育て支援の取り組みをもっと身近(日常的)に提供したくて

2008年からはじまった取り組みです。

お子さんと一緒に、森の時間の中で、ゆったり、のんびりと過ごしていただける、そんな活動を目指してスタートしました。



10:00 受付開始
11:00 までは自由時間。



草原の広がるグラウンドは開放的な空間。子どもたちが走ったり遊んだり色々な活動をする場所。



梁山裏のトドマツ林から伐り出された随伐材でつくったログハウス「森のおうち」。木のいい匂い。



森ちょこっひろばの屋外の集客場所となるのがこの「森トンハウス」。なんだか妙に落ち着く空間です。



ツリーハウス「かぜのいえ」は、台風が折った幹の上につくられました。遊びの仕掛けがあるよ。



11:00 もりちょこっスタッフと一緒に
散歩スタート。それまで自由時間で過
していただいたみんなの大集合です。



11:45 おいしい手作りおやつで
交流タイム。



お腹がいっぱいになったら、自由時間。

森ちょこっひろば番外編



父と子の日

普段子どもとじっくり外遊びをする時間がとれないお父さんたちと、
子どもが過ごす時間。お父さんたちによって子どもの遊び心がどんど
ん引き出され、いろいろな遊びや活動が展開されています。
(小学生低学年以下のお子さんとその保護者の方が対象)



出張森ちょこっひろば

鉾山のフィールドを飛び出して、まちの中に登場する森ちょこっひろ
ば版。まちの中でも子育てを応援してくれる環境を探し、みんなと遊
びに行かせていただいています。鉾山にはない新たな交流も。



森の中の子育てはこんなに広がっています

ふあれすと鉱山にて実施中。お問い合わせは、ふあれすと鉱山指定管理者「モモンガくらぶ」へ
<http://npo-momonga.org/>

森のサロン



子育てサロンのムードをもつ自然体験活動プログラム。



乳幼児(0~3歳児)と保護者
月1回、平日に実施

森のようちえん



家族で楽しむ自然体験活動のプログラム。
四季折々の自然を生かした活動を行っています。



幼児(3~6歳児)ファミリーユース
月1回×2コース、週末に実施

もりもり森ン子くらぶ



幼児(5~6歳児)を対象にした自然体験活動のプログラム。
森のようちえんより富集要素をたっぷり取り入れています。



幼児(5~6歳児)親子別々
月1回、週末に実施

コーザン・ながくつレンジャー



小学生を対象にしたネイチャーセンターのお仕事体験プログラム。
幼稚園を卒業したら、ながくつレンジャーへ。



小学生(1~6年生)
月1回、週末に実施



鯉山の子育て支援は、子どもの成長や活動の段階に合わせてさまざまな活動が行われています。

●

小学生になってからは、もっと自然体験活動を体で感じたい時に、「わんぱくキャンプ」があり、頭で感じたい時に「子ども自然博士講座」がある。鯉山から学校へ通い生活体験ができる「通学合宿」も。

●

中学生になると、自然体験活動の中で社会性や主体性を身につけていこうとする比較的最長いキャンプ(3泊4日)もあります。子どもの成長を受け止め、またサポートしてくれる自然の中で、子どもたちはエネルギー全開で遊びます。

●

そんな子どもたちに乗けてもらえない？大人たちは、森の中でのんびり過ごしたり勝手に健康づくりができる森の中で、すこしアクティブに動く「たまにはアウトドアライフ」で楽しんでください。

●

その他、様々な活動が行われていますので、お気軽にお問い合わせください。



サークルの人たち、みんな集まれ



※子育てサークルとは、活動範囲①～③くらいをもち子育て中のお母さんが集まって、日頃から子どもたちの遊びのきっかけをしたり、仲間付き合いをする活動を行っているグループのことです。有志のお母さんが自主的に運営しているグループで、今後はそんなサークルの役員の人たちに集まってもらいました。

子育てサークル^①のママたちにインタビュー。今日集まってくれたのは、普段から鉱山にも遊びに来てくれている子育てサークルの「たんぽぽのように」「苺のきもち」「さくらんぼキッス」のみなさんです！

Q.子育てサークルに入ったきっかけと、ふれずと鉱山に来たきっかけを教えてください。

千田さん：いま上の子が年中だけど、「苺のきもち」は自分たちの好みにあったサークルを作っていたと前会長と話し合ってつくりあげてきました。今日来ている岩さんも全員顔見知りなんです。以前「たんぽぽ」にもいたこともありまして、そして、奈良さんとは、上の子の産院が一緒なんです。赤ちゃんの頃から知っているんですよ。

スタッフ：へえ、みんな顔見知りなんですね。

近藤さん：(サークルに入ったきっかけは)私は上の子が4歳の時にひきこもり気味だったんですが、「苺のきもち」に誘ってもらって入会しました。結構ひきこもりの性格なんです(笑)

スタッフ：もうひきこもってない？

近藤さん：いやちょっと(笑)

スタッフ：私もたまにひきこりますから(笑)

新田：私は3人目妊娠中、子どもさんです。鉱山に来るようになったのは、私がサークルの役員になってから。なかなか自然体験とかする機会もないので、子どもたちにとってもいい刺激になっています。あと、「たんぽぽのように」に入ったきっかけは、1歳頃は子育て支援センター位しか行くところがなかったんで、半年で会費1000円で保育士さんが遊んでくれたりして生活になじめるかなあと思いついて(サークルに)入会しました。

田中さん：「たんぽぽのように」に入ったのは、千田さんとマタニティ教室で知り合ったのがきっかけです。鉱山へはサークルの行事で来るようになりまして、その後、森のサロンに申し込んだり、(市の)支援センター(主催で、会場がふれずと鉱山だった)の空遊びとかに参加してふれずと鉱山に来るようになりまして。

伊藤さん：反抗期の姉となんでもならしめる弟に手をやいています。家でも、だまっていけないので、ふれずと鉱山に来て外で遊ばせると喜ぶので利用しています。「たんぽぽのように」に入ったきっかけは、千田さんと市のマタニティ教室で知り合って、

「子育てサークルに入らないの？」って、そして、その頃、支援センターでたまたま新居さんと話をしていたら「私、サークルの会長！」「みたいな、せまい世界で(笑)

奈良さん：(奈良さんが所属するのは「さくらんぼキッズ」)入ったというより新たにつくったサークルのきっかけを話してくれました)しばらくひきこもりの経路の後、子育てサロンへ出かけたりしているうちにいろんな人と知り合いになりました。そのうちに、双子の知り合いが増えたので、保健婦さんの協力を得て4組くらい集まった時、保健婦さんに「サークルにしないかい？」と言われたのがきっかけでした。「苟のさもち」前代表の片桐さんにいるいと相談ののってもらったのですが、いろいろと難しい問題とかもあるし、後ろ向きになっていたんです。そんな時に4組の中にもいた髙見さんにグイグイグイ、やろう、やろう!といわれて、それで2人で「さくらんぼキッズ」を作ったんですよ(笑)それで髙見さんは「さくらんぼキッズ」の副代表で、そこから、伊達に知り合いがいたので、登別・空堀・伊達に1人ずつ代表を置いて三市合同のサークルをやろうということになりました。

ここを利用するきっかけは、まず苟のさもちの人に、「苟の子育てフォーラム(モモンガくらぶ主催)の中で、サークルの発表があるから見に来て」と言われ、鉱山って全然知らなくて、ちょっと何気

に来て参加したら、森のようなちえんの体験をやっていて、楽しくって。

スタッフ：子育てフォーラムが最初のこと？で、そこから鉱山に来るようになった？

奈良：そういう感じですよ。

Q.サークルの役員になったきっかけは何ですか？

新居：もう決められてたんだよ(笑)

田中：役員を決める話をする時に、サークルに残った人の人数がざりざりで、とりあえず何かの役員をお願いされました。

スタッフ：やってみてよかった？

伊藤：サークルに半年しかいないのに、次の年に役員をやってといわれて「ムリムリ」って困ったんですよ。でもそうやって、役員を順番順番にやっけていくから、抜いていくのがなくて困ったんですよ。いろいろ役員の人の苦勞もわかってよかったかなーと。

Q.子育てサークルなどで困っていることはなんでですか？

千田：やっぱり米福の(サークルの)役員決め

新居：役員が戻なくて困ってます。みんなその話になると...

千田：なんか目をそらすよね

奈良：子どもの年齢層が高いお母さんの話を聞きたいんだけど、先輩ママの話、子どもの成長がどうなっているかとかを聞きたい。

新居：呼んだらいい

奈良：呼ぶにしても遠慮される

伊藤：遊びに連れていけるところが少ないっていうか、うちは2人いるので、午前中遊ばせてちょっと食べ物を入れて、車で寝かせるパターンをとってるんですよ。じゃないと2人いっぺんに寝ないので、ちょっとお弁当をたべさせたりできる場所がなかったりするんですよ。

新居：自分の病院が困る。親が近くにいるわけじゃないし、直ぐ近くにいる時はちょっとぼんやりと遊べたりできるけど、病院に子どもを2人連れて行くのはなかなか大変だから、それが困る。





スタッフ:みんな仲良くないですか。例えば、新田さんが興味を持って友達にあずかってもらったりはしないの？

新田:仲のいい人にはお話ししますよ。ま、お互い話してことで。

スタッフ:その辺はうまくみんなできるんだね。

新田:だからだいたい同じような立場の人たちですよ。

スタッフ:時間がないとか、どうするかの解消が一番頼れるのは、友達とか親とか…。

千田:自分の時間がほしい。ぜいたくな暇がほしいけど。

近藤:時間が足りない。自分の時間が取れないことかな。

新田:早くそのりどりの時間がほしい。

Q.ふれずと鈴山への希望はありますか？

田中:親子で一緒にいいけれど、ふれずと鈴山のプログラムで幼児があったら。たまにそういうのが

あったらいいなと。

新田:体を動かしたい！

スタッフ:子育てで忙しくても、「今」やりたいんだよね。

Q.最後に子育ての中でふれずと鈴山とほどういう場ですか？

奈良:こういう環境ってなかなか無いので、すごく豊別市民でラッキーだったかなって思ってます。「ゲームばかりしないで、外遊びをいっぱいほしいよ」って(笑)

新田:私は札幌出身でこんなに自然のある環境で育ったことがなかったので、子どもたちもここにいないと体動かできないことがいっぱいあると思うんですよ。季節に応じて、そういうことが子どもたちの小さい頃の思い出になればいいなって思うんですよ。なかなか作ろうと思わないとつくれないっていうか。そういう思い出をこういう時代だと、そんな場かな。

千田:なごむ場かな。子どもが小さいうちだとどこへ行っても連れてがられて、うるさいから、ここだと安心して、大きい声でしゃべれるし、子どももの

びのびとできる。そしてやっぱり自然も多いし。豊別って自然いっぱいだけど、自然の中で遊べるかというところではなくて、ここの施設で四季が見られるし、自然が体動かせる場所って感じですよ。

近藤:親もストレス解消できる場所。来たから自然から元気もらえる。体調悪いがなあって思ってもここに来たらスッキリして得れる。そういうのはすごく感じます。

田中:私はもともと地元なんですけど、ちょっと足をのびてここまでくると自然があって、昔遊んでいたことが遊べるっていうのがいいし、子どももこの年でこういう体動かせるっていうのが嬉しい。子どもも外遊びが好きなので、来るのを楽しみにしています。

ちょっと手先のばせば来られるところ。自然を満喫できる所って感じます。

伊藤:この場所をサークルとかで使うようになって先週1回家族で来てみたんですよ。ただ雪遊び行こうって。なかなかうちのまわりだと雪がないから、こういうふれあえる場所があるっていうのを体動かしてよかったな。ていうか、今後も気軽にここに来るのもいいなって、思いました。

スタッフ:長い時間、ありがとうございました。

参加者プロフィール (子どもの事と一緒に書いていただきました)

新居絵利子さん：たんぽぽのように代表
2歳4歳の男の子の母です。サークル代表
表を2年務めました。親子で龍山の自然
を満喫しています。



佐々木めぐみ：森ちよこスタッフ
幼稚園年中の虫が大好きな男の子が一
人。龍山の森の中、ゆっくりとした時間
を応援します！



伊藤麻美さん：たんぽぽのように
みんなの目が赤になるほどの人見知り
しらずでやんちゃな娘(3歳)と息子(1
歳)の年子の母です。



土門三三代：森ちよこスタッフ
幼稚園年中の女の子1人、外遊び大好
きつ子に成長中。食べられる草花が分
かると散歩も楽しい♪



田中昌美さん：たんぽぽのように
ふおれすと龍山大好きな3歳の男の子
のママです。龍山の自然に親子で癒さ
れています。



市村和恵：森ちよこスタッフ
小学校3年生の女の子ひとり。現在ズ
ッコケ3人組シリーズ全50巻制覇にハ
マッています。



千田久美子さん：苺のきもち代表
ピアノ練習中の年中さんと3歳のはにか
みやさんの女の子2人。龍山の自然
の中でリフレッシュしたい！



紺野由美子：森ちよこスタッフ
小学2年生のやんちゃな息子と1人。
葉っぱも樹も花も虫も入るも、自然の中
で遊ぶのも大好き！



眞藤京子さん：苺のきもち
最近乳歯が抜けてウキウキの年中女の
子とウルトラマンに憧れる3歳男の子
と、癒されたい2児の母



神尾理子：森ちよこスタッフ
習い事で飛び回っているタフな1年女
子とトイブードル4匹。龍山の空気に
仲間が大好き！自称シティ派



奈良奈津子さん：さくらんぼキッズ代表
幼稚園年長の双子の男の子がいます。
伴は小粒ながら、龍山の森の中では疲
れ知らずの元気っ子です。



サークルの人たち、みんな癒され



地域が大事にしている場所
その思いが託された場所



かつて、金銀銅が産出されることがきっかけとなり誕生した横別鉱山。
その町の盛栄の面影は、木々の間からのぞく産廃遺跡からかろうじてみてとれる程度で、
閉山後はひっそりと静まり返った場所になっていました。
そこに形成されていた町、産廃、人々の暮らしを今は想像することしかできません。

いま、この場所には、登別市ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」があります。
人の営みではじまった町の様子は大きく変化しましたが、「ふおれすと鉱山」ができるずっと以前から、
鉱山の自然は、世代を超えていつでもみんなのそばにあったことを、多くの人たちから教えてもらいました。

そして、この鉱山の自然が大事なキーワードとなり、10数年という長い時間の中で、
市民と行政が想いを寄せた到達点が「ふおれすと鉱山」だったということも。

この場所に記憶された歴史、人々の想い、そしていつも恵みをたたえる自然。
このすばらしい地域の資源を、どうか次世代へ、残し伝えていきたい。
私たちのおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんが残してくれたように。



自然を近くに感じられる場所へ

お兄ちゃん、お姉ちゃん、
お父さん、お母さん、
おじいちゃん、おばあちゃんたちが
過ごしやすい拠点として。



人と自然の交流拠点として誕生したふおれすと鉱山。
清流が流れる上流域特有の、そして、
鉱山町ならではの自然の中に、
いろんな人たちが集います。

ゆったりとした、自然の時の流れの中で、
子どもは、あるがままにふるまい、
大人は、表情すら子どもに帰るような、
思い思いの時を過ごす姿が、ここにはあります。



森から広がるワッハッハ。

みんな、つながる
森を舞台にした、
新たなストーリー



自然と人がつきあうのには、ルールがあります。

自然は長い年月をかけて、地球を守り育ててきました。

私たちが自然の中に入るとき、

自然は誰にでも差別なく受け入れる懐の深さがあります。

鉱山に生まれた交流、みんなで削り上げるふおれすと鉱山。

この場所から生まれるのは、人と自然、人と人のつながり。

そして、自然のもつルールを考えていくことでまたはじまる、新たなストーリー。



子育てができる環境、期待されること

現在の子育て支援環境の現状を理解するために、子育て支援拠点にも協力をいただきアンケート調査を行いました。実施拠点は、「ふおれすと緑山」と「子育て支援拠点(3か所)」の計4か所です。調査結果を分析し、見えてきたことをご紹介いたします。

- 主に20代から30代の主婦に利用される拠点で、主に自家用車を交通手段としていること。
- 多くはリピーターで、同施設に10回以上訪れる層(ハードユーザー)が中心となっている施設も多い。現状は、週1～月1程度の利用者が多いが、実際の希望を聞くと、「週のうち複数回」の利用を望んでいる利用者が多いこと。
- 利用目的は、多くは「子どもの遊び、交流の場」あるいは「子どもの関する情報収集」である

が、「保護者自身のリフレッシュや交流の場」としての役割も担っていること。

- 利用において重視されていることは、「施設における遊び場の広さ」のようなハード面のみならず、むしろ「子育てに関するイベントやプログラム」、または、「スタッフの専門知識や信頼感」等のソフト面を重視していること。

また、このアンケートでは、「誘致距離」=利用者の自宅から利用施設までの道のり(距離)についても調べてみました。結果は、

- 施設間により、大きな誘致距離(自宅からの距離)の差が見られました。それぞれの拠点に対する距離感の差と各施設の「利用で重視する部分」の関連性から、主にソフト面の充実度の差が誘致距離の差の原因となっていると考

えられます。つまり、ソフト面が充実していれば、物理的な距離の移動も行っているという結果も出てきました(その他、調査概要の詳細は19ページに掲載しています)。

私たちのようなももとは子育て支援とは専門外の組織が、子育て支援の活動を展開することで生まれたソフト(森を活用した子育て)に対する期待やニーズが高いことがアンケートの結果から伺い知ることができました。このことは、子育て環境をより充実させるためにも、新たなサービス創出として評価する視点だけではなく、次のステップは、今後もさらに専門性をもつ子育て支援拠点や団体等と連携・協力を進めることが重要だということも示していると考えています。

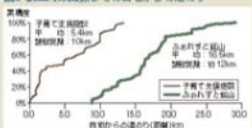
図1 利用回数



図2 利用頻度



図3 調査対象拠点までの自宅からの道のり



ふおれすと鉱山に期待されていることは？

～子育て支援施設(3施設)とふおれすと鉱山の比較からみた検討～

●利用回数 & 利用頻度 図1-2

子育て支援施設では、利用者の多くが利用回数を10回を超すリピーターとなっており、利用頻度も1週間に1回以上となっています。ふおれすと鉱山では、未だ利用回数は少なく萌芽的段階といえ、利用頻度も月に数回程度という状況となっています。

●誘致距離と距離感 図3-4

子育て支援施設では、自宅からの道のり(距離)が平均5.4kmとなっていました(図3)。距離感(図4)をみると、この程度の距離では、「遠い」と感じている利用者はほとんどいません。ふおれすと鉱山は、自宅からの道のりは平均12kmであり、子育て支援施設と比較して利用者は遠くから来訪していました。一方で、距離感をみると「もう少し近いほうがいい」が比較的多くなっていますが、「遠い」と感じている利用者は少ない状況です。

●利用で重視する点 図5

子育て支援施設とふおれすと鉱山と比較すると、特に「子育てに関するイベント・各種プログラム」への期待が大きいのが特徴でした。

ふおれすと鉱山は、子育て支援施設と比較しアクセスがしづらい中、月に数回程度の利用がなされています。また、この利用を支えるのは「各種イベント・プログラム」に対する期待と考えられました。今後も、ふおれすと鉱山は、このような地域の子育てを支援すべく、その他の子育て支援施設との連携・ネットワーク化を視野に、「日常的な「子供の成長や親の子育て生活」をより円滑に行うための「息抜き・リフレッシュ」となるような「各種プログラム提供」を行うことが望まれます。

(室蘭工業大学 市村 恒士さん)

図4 距離感

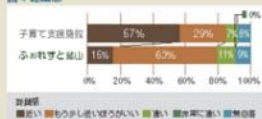
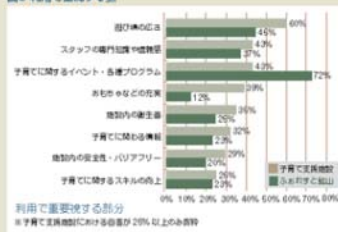


図5 利用で重視する点



利用で重視する部分

※子育て支援施設における割合が20%以上のみ表示

●部分コメント調査協力者結果一部抜粋:室蘭工業大学市村恒士さん
テキスト:NPO法人助産自然活動支援センターモンゴク530頁



ふおれすと鉱山への道 9 上り坂がみえてきました。ここを登りきれば～。

調査概要

■方法

●調査概要

登別市及び白老市における子育て支援施設において、利用者に対するアンケート調査(2007/11～2008/1)を実施。

●調査対象施設

「登別市ふおれずと緑山(以下、ふおれずと)」、「白老すくすく39(以下、白老)」、「登別子育て支援センター(以下、登別)」(中央子育て支援センター(以下、中央))

●アンケート調査内容

属性(性別、年齢、子供年齢)、アクセス(居住地、交通手段、所要時間)、利用頻度、利用目的、利用で重要視する部分等

●アンケート有効回答数

・全体:137件(うち、ふおれずと:64件、白老:16件、登別:37件、中央:19件)

■結果

●属性等

性別:男どが女性(全体:98%)

年齢層:25～34才が約9割。

子供年齢:比較的0～3歳児が多い。

職業:専業主婦が7割(全体:85%)

交通手段:自家用車が約9割(全体:91%)

●利用頻度

・全体:多くがリピーター(全体:89%)

・施設別:全体と比較し「ふおれずと」は、比較的に利用回数は少ない(10回以上:26%)、一方で、その他3施設は、10回以上が7割を超える。

●利用頻度

※単位

・全体:週1以上が7割(1週間に2～4回以上:44%、週1に1回:28%)

月1～4回程度が半数(1ヶ月に1～3回程度:35%、週1に1回:16%)

・施設別:「登別」、「中央」は重複回答が多い(1週間に2～4回以上が各々、38%、32%)

●利用の目的

・全体:「子供の遊び・学びの場として(86%)」、「子供同士の交流(68%)」が多く、次いで、「子供の育児促進(49%)」、「子育てに関する情報収集(48%)」、「保護者のリフレッシュ(45%)」が多い。

●利用で重要視する部分

・全体:「子育てに関するイベント・各種プログラム(57%)」、「遊び場所の広さ(53%)」、「スタッフの専門知識や経験(40%)」が多く、次いで、「施設内の衛生面(30%)」、「子育てに関する情報(28%)」等が多い。

・施設別:全体と比較し、「ふおれずと」は「子育てに関するイベント・各種プログラム(72%)」が多い。白老では、「子育てに関するイベント・各種プログラム(25%)」、「スタッフの専門知識や経験(19%)」が低い一方で、「おもちゃの充実(44%)」が多い。

●誘致距離

※ここでは、詳細な居住地が明確になったサンプルのみを対象に、自宅から施設までの距離(道のり)を集計しその累積度数の80%の時のその距離を「誘致距離」とした。

・全体:概ね誘致距離は、約12km程度となった。

・施設別:「ふおれずと緑山」は、約16.5kmと誘致距離が長い。

「その他子育て支援施設」は、10km程度となった。

・距離感別:「近い」と答える利用者の誘致距離は、約4km、「やや遠い」と答える利用者は、12kmとなった

調査協力(ありがとうございました)

登別市
登別子育て支援センター(登別市)
中央子育て支援センター(登別市)
NPO法人お助けネットワーク

調査協力・分析
室蘭工業大学 市村慎士さん

調査企画
NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

▼ コーザンの子育てを支える仕組み



進化する子育ての応援部隊

未就園児とその保護者を対象というのは、森のサロンと一緒に。

森のサロンとの違いは、ノンプログラム。

つまり、みんなで集まることと、ゆったりお散歩をしたり

森の中のいまが旬のものをみつけて

みんなで遊んでいくスタイル。

お昼も食べて思い思いに

自分がいたいただけずっど。

未就園児とその保護者を対象に
2時間の自然体験活動
プログラムとして
提供しています。
月1回の活動。

森のサロン

新スタッフ

新スタッフ

新スタッフ

初代
スタッフ

スタッフ

スタッフ

初代
スタッフ

初代
スタッフ

初代
スタッフ

森ちょこっ

スタッフ

スタッフ

スタッフ

スタッフ

スタッフ

スタッフは
いつでも
募集中です!

親役お母さんたちの、いろんな悩みや困ったを聞いていうちに、そうだね、月1回の活動だけじゃなくて、日常的に遊べたり、他のママたちとつながったりする場もつくったらいいなって、おもいきってつくられた「森のちょこっひろば」。今では、たくさんの親役子育て中のお母さんたちがスタッフとして活動をサポートしてくれています。

スタッフは
いつでも
募集中です!

ふおれすと鉱山で子育て支援の取組みがはじまったのは、2005年のこと。

自分の子どもを自然の中で遊ばせたいと願うお母さんたちがふおれすと鉱山に集まり始めている中、翌年には0～3歳児の自然体験活動をベースとした活動「森のサロン」がスタートすることになります。

これまで子育て支援の活動の経験値が少なく試行錯誤の取組みが始まる中で、「自分の子どものために」から、「他の子どもたちやお母さんにも楽しんでもらいたい」という有志のお母さんたちが最初声をかけてくれて、ほんの敷人から、本当に手探りの活動が始まりました。

月1回の活動の他に、さまざまな子育て支援の活動が広がっていき、日頃の活動を発表して子育て中のお母さんたちの声をいっぱい聞こうよ、と開催される「森の子育てフォーラム」や大型の木のおもちゃで遊び、木や森の良さを感じてしまう「木と森の遊び場」の運営を行っていくなど、マ

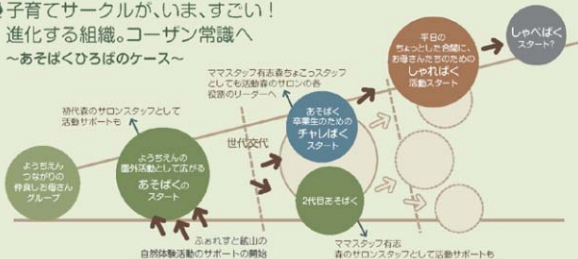
マスタッフたちの活躍はどんどんと広がっていくばかり。気がつけば、ママ友のネットワークの中で支援活動に参加してくれるスタッフもどんどんと増えていきました。

森の子育てフォーラムや、日頃の活動の中からわかってきた、現役ママたちの「みんながゆっくりのんびりできて、集える場所がない」という悩みを多く聞くにつれ、週に1回でも、そんな悩みに応えられる場をつくりたいと、「のんびり」「ゆっくり」「おいしい」がキーワードの「森のちょこつと子育てひろば」、通称森ちょこつが誕生したのです。

もちろん、これまでいろんな活動を進めていたママスタッフたちが活動の中核です。

	新規	既存	強化
2005年	●森のようちえん ●ながぐつレンジャー		
2006年	●森のサロン ●第1回森の子育てフォーラム	●森のようちえん ●ながぐつレンジャー	●モモくら支援チームのスタッフ研修
2007年	●もりもり森子くらぶ	●森のサロン ●森のようちえん ●ながぐつレンジャー	●第2回森の子育てフォーラム ●木と森のおそび場
2008年	【子育て拠点づくり】 ●現市民展示室の整備所づくり ●森の中でちょこつと子育てひろば ●父と子のプログラム	●子育て支援情報の調査 ●子育て支援の事務局 (有給ボランティアスタッフ配置)※	●森のサロン ●森のようちえん ●もりもり森子くらぶ ●ながぐつレンジャー ●第3回森の子育てフォーラム
			●各モモくら支援チームが主体となったプログラム企画・運営 ●各モモくら支援チームが主体となったプログラム企画・運営 ●子育て支援の事務局(有給ボランティアスタッフに配慮)

子育てサークルが、いま、すごい！
進化する組織。コーザン常識へ
～あそばくひろばのケース～



あそばくの活動

親友年長、年中さんのお母さんたちが活動を引き継いでくれました。活動の楽しさ、おやつつき、パンパクは変わらず、以前よりバリエーションした活動を展開。

2006年の活動は～

- 春 水子屋探検(園外とウインター)等
- 夏 井筒ひびし(ゾーメン)等
- 秋 ハロウィンパーティー(かぼちゃのクッキーとプリン)等
- 冬 クリスマスあそばく(タッチオープンで絵の丸絵)等

チャレばくの活動

毎日1つの種目に挑戦チャレンジ!
その後は、おしゃべり、パンパク、等がキッキングでバクを待って待っています。

2006年の活動は～

- 春 別院温泉ツアー(別院温泉セラー等)
- 夏 別院遊び(別院でカップケーキ等)
- 秋 コーザングリーンレースへ参加
- 冬 年末もちつき大会 年明け雪山ラッセル会

(あそばくひろば)

しゃべりばくの活動

手選りでおしゃべりしたい、おしゃべり、ゆったり大人だけの活動。今まで、気づかなかった自然と本人との自分だけの時間。

2006年の活動は～

- 二塚の湯水でハイキング
- 雪割温泉訪問
- 札幌へおんぼでリョウブ
- かずえのお料理教室

しゃべりばく・・・?

お母さんたちが集まって楽しくおしゃべりする会、「しゃべりばく」は開始～?

鉱山で子育て支援の活動がはじまってすぐの頃、ひょっこりやってきてくれたお母さんたちのスゴイ取り組みをご紹介します。

子育てサークルをはじめ、子育てママたちは自分たちでネットワークを組んで、自分たちが実現したいことを様々な形にしています。(p7~10のインタビューを御覧ください)

今回は、同じ幼稚園に通うお母さんたちが園外活動として、自主的に幼稚園の保護者の人とつながって結成した「あそびくひろば」とその後の経緯についてインタビューをしました。

Q あそびくやちゃれびくの活動はどんなことをしているんですか？

あそびくは、月1回の活動。
開園後、園に集合して、親子で約2時間の自然体験プログラム。
遊んだ後は、お母さんの作った手作りあやつをばくばく。

ちゃれびくは、毎月1回、季節毎の活動を行っています。

(詳細の活動は左のページ)

Q どんどん活動が進展していますよね、すごいですね。なんで広がっているんですか？

皆のことが好きだから(ハート)、この一言に尽きます。あと、付属幼稚園は園バスがなく、毎日お母さんたちが顔を合わせて同じ時間を長く共有しているのも絆を認めている理由かな。

開園の危機も皆で乗り切って存続につながった、かつこつけて言うと、皆が皆を認めているからかな

(まきこちゃん)

Q 自然の中で子どもたちを遊ばせることについてどう考えていますか？

すぐに目に見えるものではないけれど、子どもたちの心の栄養になっていると思う。子どもたちが大きくなった時に情緒や個性が豊かに育っていると思う。

Q 最後に、ふおれすと鉱山はどういうところ？

- ・子ども時代に帰れるところ(まきこちゃん)
- ・一番は、リラックスできる、開放感があるところかな(まよちゃん)
- ・季節と時間の流れを実感でき、心が癒される場所。(のり)
- ・人の輪が広がるところ。自然の中だと、なぜかいつも以上に会話が弾みます。マジック??? (みほちゃん)
- ・自分のこだわりを家庭だけでなく、社会でも表現できる環境(のすえ)

♪ ちゃれびくの歌

ちゃれはちゃれんじ
ちょうせんた〜

ばくはばくばく
おいしいを〜

ばくにぶかって
ちょうせんた〜

わーいはやかいな
ちゃれびくたい

取材協力

まよちゃんこと、倉地神楽子さん

【あそびく代表の代理】

みほちゃんこと、坂倉美保さん

【あそびく副代表の代理】

のりこと、廣田梨恵さん

【あそびく会計係の代理】

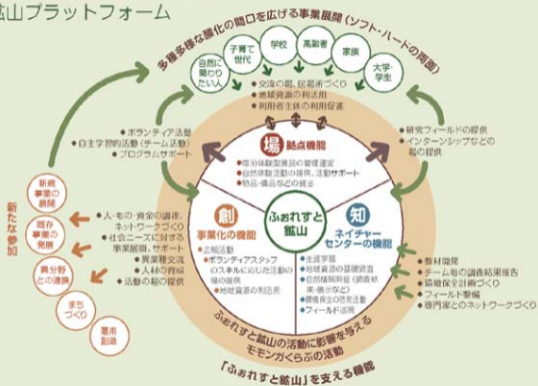
かずえこと、中村聡恵さん

【ちゃれびく代表、あそびく元代表】

まきこちゃんこと、神尾理子さん

【ちゃれびく副代表、あそびく副代表】

ふおれすと鉱山はこんな場所 鉱山プラットフォーム



ふおれすと鉱山の機能

市の社会教育施設として、またネイチャーセンターとして果たす役割に加え、モモンガくらぶが担うことによって「拠点機能」「ネイチャーセンター機能」「事業化機能」の3つの機能に分類される。

ふおれすと鉱山の特徴は……

- 地域・環境資源の利活用(多様な人が参加できる機会提供)
- 多様な人が参加し創り上げる空間(異世代交流の場、鉱山プラットフォームの形成)
- 知識を実践に活用する機会(利用者が気軽に運営に参加できる運営体制、コーディネート)

に多くの事が包括されると考えられる。実践活動の積み重ねによって作り上げられる人と人のつながり、人と自然のつながりによって、市民が参加する環境保全活動を推進する基盤を創り上げている。

モモンガくらぶの機能

モモンガくらぶは、鉱山を活動拠点におき、自然をキーワードに環境保全、地域づくりに活動を展開させている。ふおれすと鉱山事業以外で築いたネットワークや資源を活用しつつ、ふおれすと鉱山の運営目標に向けて、活動をさらに促進させる相互連携の事業を展開させている。

ふおれすと鉱山指定管理者として活動中。
[2007年4月～2012年3月まで]

ふおれすと鉱山の運営ステップ

STAGE2

2007～
市民が主役

5～14日(2007年度以降)
「市民による市民のためのネイチャーセンター」
運営開始と同時に
指定管理者 NPO法人モモンガくらぶ

4、5日(2006年度)
2007年度以降、5～10年程度続けた運営計画づくり
各種具体的な準備作業

STAGE1

2002～2004
行政が主役

3日(2004年度)
コンセプトの見直し、本事業スタートへの準備

2日(2003年度)
ポテンシャル・マーケットの整理

1日(2002年度)
ポテンシャル(資源)、マーケット(市場)の調査

2002年ふおれすと鉱山運営計画より、日の一部が省略されている

地域づくりへ。モモンガくらぶの活動の変遷

VISION

目指す未来

持続可能な社会。言い換えると、自然、産業（地域経済）・人間、この3者が調和を保ちながら発展する地域へ。



これから取り組む具体策のキーワード



地域づくり・地域再生（キーワード政治・経済・文化・ひと）



▼モモンガくらぶの活動の変遷

2002年の活動当初から現在に至るまで、モモンガくらぶが行ってきた活動の可能性は様々な形で応酬していただくみなさまの力をもって、広がり始めています。

モモンガくらぶが担うふれずと鉱山運営では、登別市の社会教育施設として果たすべきふれずと鉱山川の役割に加え、地域ニーズ、社会ニーズに応えられる拠点、そしてその運営を市民が担う、市民参加の場(モモンガくらぶというひとつの仕掛けの存在)であることを目標のひとつとして掲げ運営されてきましたが、市民力を結集し、活動の場をもつ拠点運営モデルとして、ひとつのプラットフォームができつつあります。

少子高齢化、環境問題など幅広く取り組むための地域資源を活用した事業展開を図るためには、今後、地域が保有する市民力や関係機関との連携は当然ながら、将来的には地域の保有する資源を活用し、事業化を行うコーディネーター力、プロデュース力をもった機能や組織が必要であることも、みんなで築きあげていくもの、大小に関係なくひとつひとつのことが、地域の基礎力を向上させるということも見えてきました。

特定非営利活動法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

Momoronga Outdoor Activity Support Center Mōmōnga-kurabu (MOASC Mōmōnga) (株)

MISSION

●この法人は、自然活動を通じて人と人、人と自然のふれあいを促進し、子どもから大人まですべての人が、豊かな自然を五感で感じ、喜びの中で感動し、自然の大切さを学び、自然の価値と自然を大切にすることを学び、豊かな人間性を創造し、自然と共にある暮らしと未来づくりに寄与することを目的とする。

事業概要

- 子どもや大人及び高齢者、障がい者への自然活動の提供および自然活動支援の実施
- 環境、自然に関わる人材の育成と新たな運用の場の創出
- 環境、自然に関わる情報および学習プログラムの情報収集と提供
- 環境、自然に関わる調査、研究
- 関係団体および他人の相互情報交換や活動の支援
- 上記の事業に別添する事業

沿革

- 2002年5月 ふれずと鉱山支援組織設立準備会発足
- 2002年9月7日 登別市ネイチャーセンターふれずと鉱山活動支援組織モモンガくらぶ設立
- 2005年5月29日 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ設立
- 2005年8月29日 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶとして法人登記
- 2005年10月1日 任意団体モモンガくらぶ顧問会(解散時)
NPO法モモンガくらぶ設立記念会
- 2007年2月9日 登別市より登別市ネイチャーセンター指定管理委託
- 2007年4月1日 登別市ネイチャーセンター指定管理委託、事業開始
現在に至る



どんなことができますか？

四季を通じていろんな自然体験活動ができます。
週末には自然体験イベントが自由押しですよ。
また、ご利用に合わせて「ふおれすと鉱山」のスタッフや
ボランティアスタッフがみなさんの活動をサポートすることも
(事前申し込みが必要です)。
さらに、ご要望があればオーダーメイドでの自然体験プログラムを
企画・提供することもできます。

森の中の子育て。
登別にあり。

ふおれすと鉱山のご案内

住所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町 8-3

☎ 0143-85-2569 ☎ 0143-81-5808

✉ kouzan@npo-momonga.org

🌐 <http://npo-momonga.org>

入 場 料：無料(施設使用料等は別途です)

● 開館時間：日帰り利用 / 9:00~17:30

宿泊 / チェックイン 14:00~
チェックアウト 11:00

● 休館日：月曜日(休日の場合はその翌日)

年末年始 ※詳細はお問い合わせ下さい



あとがき。

2008年、新しい取り組みとしてはじまった「森ちょこっひろば」には、予想以上の反響があって予定していた登録組数があったという間に定員に達してしまいました。その後も続く問合せに、受け入れの体制を取れるように、そしてみんなが過ごしやすいろばの姿はどんなものだろう…と手探りでスタートしたのがつい先日のことのようです。

気がつけば、6月から11月まで毎週水曜日森ちょこっひろばの開校予定期間が無事に終了していました。この間には、新しいママ友ネットワークができた方も、普段からお散歩するという習慣ができた方もいらしたのではないのでしょうか。嵐山にふらつと来て子どもと遊ぶ姿を多く見かけるようになりました。

うちうちの話になりますが、この活動が無事終了し、様々な新たな活動を展開できたのも、森ちょこっスタッフとして活躍していただいた5人のみなさんのお力添えがあってのことです。それぞれ個性と強みが重なりあって奏でられた成果が今の森ちょこっにあります。

究はみんなも子育て中のお母さんとして活躍しながらも、さらに他の子どもたちにも嵐山での楽しい活動を伝えたい、ということでボランティアスタッフとして活躍してくれているのです。そのパワーと心意気、感謝&尊敬しています。いつもありがとうございます。

2009年、また新生森ちょこっひろばはまた手探りながらも引き続き再開します。今後ともみなさまの応援を頂けますよう、どうぞよろしくお願いたします！

KOZAN&momonga STYLE

森の中の子育て。

MOMOスタBOOK Vol.3 子育て編 2009年3月発行

発行人：松原悦一／編集人：吉元美穂

発行者：NPO 法人登別自然活動支援組織キモンガくらぶ

〒059-0021 北海道登別市松山町3番地3

TEL：0143-85-2569 FAX：0143-81-5808

e-mail：momonga@npo-momonga.org

URL：http://npo-momonga.org

編集／吉元美穂 イラスト／西登剛子

デザイン／(株)ウワン

写真／吉元美穂 松原伸一 ふおれすと嵐山

協力／森ちょこっスタッフ

神尾摩子、土門三代、佐々木めぐみ、市村和恵、紺野由美子

本書は、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」より助成を受け、作成されました。



KOZANamomonga STYLE

森の中の子育て。

MOMO'S BOOK Vol.3 子育て編

発行・編集

豊別自然活動支援組織モモンガくらぶ

独立行政法人国土院連携機構「長寿・子育て・障害者共生」

2008年度助成事業